

マレーシア 低価格でもマンダリンの売れ行きが悪い

New Straits Times 2024年2月8日

クアラルンプール発: 中国式の旧正月を祝うまであと2日となったが、オレンジの販売業者は低い価格を提示しているにもかかわらず、在庫を処分するのに苦労している。FMT(ニュースサイト)は、例年に比べてこの縁起の良い果実の売り上げが減少したため、オレンジの販売業者らは損失に直面していると伝えている。

ブキット・ジャリル地区(クアラルンプール市の高級住宅街)に店を出すラウ・ミン・ホイ氏(58歳)は、今年はマンダリンの売り上げが10~20%少ないと報告した。同氏は、今年の中国本土からのマンダリンの輸入は、昨年と比べて天候が良く、果実の生産量も良好であったため有望であったとしつつ、「大玉(XL)のオレンジの価格は通常は40RM(マレーシアリングgit 1RM=約31円)のところ今は30RMで売っているが、売上高は非常に少ない。果実の品質は良いが、需要は約40%少ない。法人や企業からの購入も大幅に減少している。この状況が続けば、在庫を処分するためにもっと安い価格で売るしかない」と述べた。

コタ・ダマンサラ地区(クアラルンプール市郊外の新興住宅地)の販売業者であるタン氏(46歳)もラウ氏の意見と同調し、売上の減少は景気が後退する中で人々が経済的に慎重になっているためだと指摘し、「景気が良くない。以前は商売がはるかにうまくいっていた」と付け加えた。

一方、FMTの取材に応じた客のチェン・ブンテン氏(44歳)は、食料品の価格が高い中、旧正月前夜のご馳走のためにお金をとっておきたいので、お祈りの儀式用のオレンジは1箱しか買わなかったと語った。また、法人経営者のリム氏は、従業員や得意先に配布するために購入したオレンジは、昨年の40箱から今年は25箱に減らしたと語った。

シンガポール 旧正月を前に日本の高級果実の需要が高まる

ASIAFRUIT 2024年2月9日

旧正月を前にした祝祭需要で、シンガポールのチャンギ空港では日本産農産物の輸入が増えている。

CNA(ニュースサイト)の伝えるところによると、チャンギ国際空港にあるSATS(シンガポール空港ターミナルサービス会社)のクールポート(空港内冷蔵施設)では、祝賀行事に先立って日本産高級農産物の取扱量が前年同期比で10%増加した。クールポートのクールチェーンマネージャーであるパリー・リム氏はCNAに対し、この時期の増加は一般的に予想されることだとして、「ピーク時の約2~3週間前には、貨物量が大幅に増加するのが分かる」と述べた。

準備として、クールポートはこの繁忙期にスタッフを増員する。クールポートの現場主任であるナビール・アユブ氏はCNAに対し、「どの便に生鮮食品が大量に積まれるかはだまかに見当がつく。我々はピーク時に備えて事前に計画を立てるようにしており、登録者リストを使って状況に応じた計画を立てる」と語った。

クールポートは、2024年には貨物量がパンデミック前の水準に回復すると予想されるとしており、貨物の増加に先立って、訓練する新人の数を増やしている。ナビール氏は、「(新人職員は)メインのトレーニングセンターで生鮮食品(と医薬品)の研修に参加する」と言い、研修は通常約8週間かかるとしつつ、「研修が終われば、クールポートの我々に合流する」と話す。

クールポートでは、需要の高まりに対応するため、業務を継続的に改善していると言う。これには、手書きの書類からデジタルバーコードスキャナーへの切り替えも含まれ、クールポートは配送の処理にかかる時間を約20~30%短縮するのに役立ったとしている。

クールポートの貨物コーディネーターであるアルミ・アブドゥル・マジド氏は、「これにより、作業がより効率的かつ迅速になり、貨物の受取人は商品を早く引き取ることができ、消費者により新鮮な商品を届けることができることを喜んでいる」と述べた。

執筆者: ブリー・カッジャティ